

【氏名】藤井 千晶

【所属大学院】（助成決定時）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

【研究題目】

東アフリカ沿岸部におけるタリーカの活動と社会的役割

【研究の目的】

本研究の目的は、東アフリカ沿岸部におけるタリーカ（スーフィー教団）の活動とその社会的役割をとおして、東アフリカ沿岸部におけるイスラームの一端を明らかにすることである。東アフリカ沿岸部でイスラームが広く普及した理由の一つは、19世紀後半以降、タリーカがこの地域に到来したためであり、その活動はスワヒリ文化の形成にも大きな影響を与えてきた。またこの時期、ザンジバル島（タンザニア）は、インド洋海域世界で勢力を持っていたオマーンの首都として、政治的・経済的に重要な役割を果たしており、様々なタリーカにとっても、東アフリカで活動する際の入り口であり、中心的な拠点となってきた。

しかしながら、これまでの東アフリカ沿岸部におけるタリーカ研究の蓄積は乏しく、現在の活動についてもほとんど明らかにされてこなかった。そのため、本研究ではザンジバルのタリーカに関する現地調査をとおして、東アフリカ沿岸部のイスラームの一端を明らかにすることができると思われる。

【研究の内容・方法】

研究内容は、主にザンジバルにおけるタリーカの活動の参与観察と、タリーカの指導者へのインタビューである。助成期間内には、約3ヶ月の調査を2度実施した。第1次調査期間では、ザンジバルにおけるタリーカの全体像を捉えることを目的とした調査を行った。第2次調査期間では、具体的なタリーカの活動内容の把握と、第1次調査期間で選択したタリーカの指導者の「預言者の医学」の治療実践について、調査した。

1. 第1次調査期間（2006年9月22日-12月22日）

①ザンジバルにおけるタリーカのザーウィヤ（修道場）に関する調査

ザンジバル全土のタリーカのザーウィヤの場所をマッピングした。さらに、訪れたザーウィヤでは、タリーカの指導者に対し、教団の概要に関するインタビューを行なった。

②タリーカの活動に関する調査

ザンジバルで最も普及しているカーディリー教団のあるザーウィヤを調査対象とし、毎日の指導者の活動に密着し、参与観察を行なった。また、この指導者は、預言者の医学（預言者ムハンマドの言動やクルアーンに基づいて行なわれる医学）の治療者でもあり、その

活動についても調査を行なった。

③タリーカ、預言者の医学に関する書籍の収集

2. 第2次調査期間（2007年6月22日-9月25日）

①タリーカの活動に関する調査

タリーカの各拠点で年に一度開催される、著名な指導者の記念日の参与観察を行なった。

②預言者の医学に関する調査

伝統的な薬を販売する薬屋での各薬のサンプルとその使用方法、全7カ所の薬屋の販売員に対するインタビュー、人々の病気観や医療選択についてのインタビューを中心に行なった。

③医療全般に関する調査

数ある医療の中で預言者の医学を位置づけるために、どのような医療が存在するか、どのような治療を行なっているのかを調査した。

④預言者の医学に関する書籍の収集

⑤ドバイにおけるザンジバル人コミュニティの視察

ザンジバル人が集住している町であるラシーディーヤで、預言者の医学やタリーカの活動についてインタビューを行なった。

【結論・考察】

第1次調査期間では、タリーカのザーウィヤがザンジバル全土で130も存在することを明らかにした。また、65カ所のザーウィヤで実施したタリーカの指導者へのインタビューでは、各拠点において定期的な修行や行事、クルアーン学校での教育活動が盛んに行なわれていることが明らかとなった。また、主要インフォーマントがタリーカの指導者であり預言者の医学の治療者でもあったことから、これまで他のイスラーム世界でもほとんど明らかにされてこなかった預言者医学の実践の一端を明らかになった。

第2次調査期間では、タリーカの活動に加え、預言者の医学の調査も行なった。預言者の医学は、クルアーンにも登場する悪魔（シェタニ）がもたらすとされる病いを治療する方法として、一定の役割を果たしている。また、ドバイでのザンジバル人コミュニティにおいても預言者の医学が実践されていた。今後は、他のインド洋海域世界でも調査することで、インド洋を介した地域の繋がりが明らかになると考える。